

令和 6 年 7 月 26 日

浜田市議会議長 笹田 卓 様

議員名 柳楽 真智子

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

1. 視察先

- ① 飯能市役所及び飯能市立第一中学校（ステップアップルーム）
埼玉県飯能市双柳 1-1
- ② 八王子市立高尾山学園
東京都八王子市竪町 97-30

2. 視察事項

- ① 不登校支援 「ステップアップルーム」の取組について
- ② 不登校支援 「高尾山学園（小学部・中学部）」の取組について

3. 視察の目的（市政との関連など）

浜田市においても不登校の児童・生徒に対する居場所や、教育機会の確保は重要課題であり、今年度から試行的に「校内フリースクール」が設置され、今後、本格実施に向けての取組が進められることから、先進自治体の取組を学び、浜田市の不登校対策の参考として提案するため。

4. 期間（移動日を含む）

令和 6 年 7 月 11 日（木）～ 令和 6 年 7 月 12 日（金）

5. 経費 34,079 円 （経費内訳 旅費 26,279 円、宿泊代 7,800 円）

6. 視察のポイント・議員活動や市政への反映など

飯能市の取組では、ステップアップルームには特別支援教育支援員が 2 名配置されているが、そのほかの学校に設置されている部屋では、地域ボランティアの協力をいただいていることや、教職員の意識も高く、保護者支援などが積極的に行われていた。

高尾山学園では、市長が設置を決断したこと。段階的な支援も行われ、市全体でスクールソーシャルワーカーは 15 名配置されており、高尾山学園を拠点に活動が行われていることも大きな意味を持っている。

様々な連携と人材や相談等の体制構築、何よりも子どもを主体とした居場所づくりなど、今後の質問につなげたい。

7. 視察内容（別紙のとおり）



【埼玉県飯能市】

- 飯能市での不登校児童・生徒は平成 29 年に 88 名だったが、令和 5 年には 269 名となった。新型コロナウイルス感染症の影響だけでなく、SNS、YouTube（ユーチューブ）等の利用による生活スタイルの変化も、不登校の増加の要因となっている。
- 不登校を減らすためには授業の充実が第一歩と考え、「楽しいと思える授業」「わからないと言える授業」「互いに学び合う授業」に取り組んでいる。授業が楽しい、いじめがない学級づくりを進めることが、何より不登校対策と考えている。
- 中学校 7 校の内、ステップアップルームが 1 校、部屋の設置が 4 校であるが、残り 2 校は先生も少ないので、対応できる職員が対応している。小学校は 12 校の内 2 校に部屋を設置している。
- ステップアップルームには特別支援教育支援員が 2 名配置されているが、そのほかの学校の部屋では地域ボランティア（民生・児童委員や学生、卒業生の保護者など）で対応している。中には 16 名の地域ボランティアがいる中学校もあり、地域で子どもを育てるといった雰囲気ができている。
- 令和 5 年度には、一時避難場所として活用し、完全復帰には至らないが、出られる授業に参加する子や、給食を食べてから午後の総合の授業に参加できるようになった子どももいた。
- 子どものニーズによって、校長室や保健室などが居場所になっている場合もある。
- 教育委員会や校長から教職員に対して、威圧的な姿勢を辞めてもらうことを強く要望した。（中には先生が苦手な授業に出られない子どももいる。）
また、校長から教職員に対し、ステップアップルームに 1 日 1 回は入ってほしいと言っている。子どもの人権を守ることが大事。
- 特に長期欠席の子に対して、岡山型不登校対策スタンダードの活用を行っているが、とても効果があった。
- 市内全てのフリースクールに訪問しており、福祉部門（子ども支援課、保健センター、社会福祉協議会等）との連携も行っている。
- 不登校の子どもを持つ保護者の不安に寄り添うため、保護者の交流会を開催し、保護者からは悩みを共有でき、こういう会があって安心したなどの声がある。

【所感】

話を伺った教育委員会の職員や校長先生の熱意がひしひしと伝わった。子どものニーズに合わせるということは、わがままを聴くということではなく、寄り添うということ。そこからが始まりだと感じた。子どもの人権を尊重することも含め、大人がどう変わるかも重要である。また、本人と保護者両方への相談支援も必要である。浜田市でも取組みが進むよう提案していく。



